

広島市立北部医療センター安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血の周術期管理における、塩酸ファスジル管理からクラゾセタン管理に変更になったことによる、看護業務量の変化
研究責任者 (所属科名)	5C病棟 看護師 宗像亜唯
本研究の目的・意義	研究対象の破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血は、患者全体の1/3が致命的な経過を辿り、1/3は重い後遺症が残るとされ、現代の医療でも極めて重篤な疾患です。破裂脳動脈瘤に対する再破裂予防を講じた後、発症から2週間は脳血管攣縮により遅発性脳梗塞を起こすことがあり、それによって神経予後・機能予後が大きく左右されます。これまでファスジル塩酸塩点滴静注による脳血管攣縮予防治療が標準的でしたが、近年新規薬剤としてピヴラッツ点滴静注液が承認され、脳血管攣縮予防管理が大きく変わってきています。その中でも、当院では特に水分バランス管理やリハビリテーションの管理方法を大きく変更しました。これらの管理方法の変更により、くも膜下出血術後患者に対する看護業務量は軽減されている実臨床的印象を受けますが、客観的なデータは全国的にもまだ見受けられません。そのため、看護業務量の変化およびリハビリテーション状況の変化に関して、数値化可能なデータの後方視的解析を行いました。
調査方法・研究期間	研究者が所属する広島市立北部医療センター安佐市民病院で行う血液検査、画像検査を後ろ向きに収集し、簡単な統計処理を行う研究です。 データ収集期間：2019年12月1日～2024年10月31日 研究期間：倫理委員会承認後～2025年10月末日（解析期間等含む）
該当資料・データ	★対象となる患者様 2019年12月1日～2024年10月31日の期間に、破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血に対して当院で治療を行った患者の内、軽症例(WFNS grade I-II)かつ根治術を行った方。(性別は問わない) ★利用する情報 過去の診療録を用いて、年齢・性別・くも膜下出血に関するデータ(部

	位・治療内容・周術期管理に関わるデータ)・周術期感染症の有無・尿道バルーン留置期間・看護必要度を利用します。
個人情報の取り扱い	診療録から得られたデータから、氏名、生年月日、住所などの個人を特定できる情報を削除し、個人情報とは無関係の番号を付けて情報を取り扱います。個人情報を削除する方法も含め、研究データの取り扱いについては個人情報管理者が厳重に管理し、解析担当者には渡しません。データ解析の際には、個人情報削除後のデータのみを扱うため、個人を特定できる情報は含みません。研究の成果を学会あるいは誌上に公表する際にも、個人を特定できる形では公表しません。
共同研究機関	なし
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：082-815-5211 担当者：宗像亜唯(5C病棟 看護師)
備考	